

1. 第2回 改定委員会の議題概要

(1) 目指すべき街の姿と計画対象範囲

【目指すべき街の姿】

住む人、働く人が集い、心地よく過ごす街

～住む人、働く人が共に過ごす街として、
将来にわたって活力を維持する持続可能な街を目指す～

『土地利用』、『交通環境』、『緑・にぎわい』の3つの視点から目指す方向性を整理

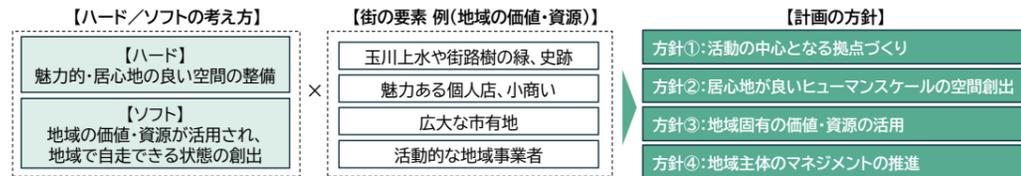
(2) 土地利用の方向性

【方向性】 企業と周辺住宅が調和する街

- ・住環境や働く環境を維持し、緑が連続した質の高い都市空間を目指す。
地域に必要とされる施設を明確にし、民間事業と連携。
- ・補助幹線道路等の整備を契機とし、以南の区域を「駅周辺にふさわしい都市機能」の誘導と統一感ある街並みを目指す。
- ・駅周辺の市有地は、駐車場機能を維持した上で、地域活動や災害時の拠点、将来の変容性や柔軟性を考慮した「にぎわいのあるオープンスペース」を目指す。

(3) 文化・地域資源の活用、質の高い緑の創出

【あるべき姿】 緑・水・史跡などの地域資源のもと、住む人・働く人が集い心地よく過ごす街



(4) 大沢教授講演

- ・都市で交通問題を検討する場合、交通だけでなく、都市、土地利用との関係を考えなければならない(相互性・密接性)
- ・人々の価値観の変化により、都市空間は変化する：量から質へ、「自動車中心」から「人中心」へ
- ・待ちたくなる・居たくなる環境をつくる ⇒ 滞留時間が長い=魅力的な都市空間 (滞留することを評価する)



2. 改定委員会で出た意見

計画対象範囲

■駅前エリアといえば？

井の頭通り以南

↓

八丁通り以南

↓

補助幹線道路以南

■計画対象範囲の考え方

- ・住宅立地状況
- ・人々の過ごし方、活動
- ・どこから人が来るのか
- ・横河グラウンド
- ・先行集中投資エリア

八丁通り以北の取扱い

目指すべき街の姿

人目線に加え、生き物の視点
武蔵野市の玄関口
⇒周辺への効果、広がり
南口、近隣エリア目標との比較

土地利用

■まちの資源

ex. 横河グラウンド
⇒将来的な土地利用

■地域におけるインパクト

補助幹線道路開通
かたらいの道歩行者専用化

■留意すべき点

極めて高い住宅需要

- ・住宅の規制・誘導
- ・商業と住宅の混在
- ・商業のあり方、機能更新
- ・魅力的な個人店の存続

まちづくりの誘導手法
ex.街並み再生地区等

緑・にぎわい

・にぎわい/文化 分ける

オフィスワーカー意見
：ランチの場所の不足

・平日/休日のにぎわいの姿
・横河グラウンド
⇒かたらいの道への
仕掛けづくり

写真：かたらいの道



3. 第3回改定委員会の議題

